

## 雲仙プロジェクト通信 11号

平成24年2月11日(土)～12日(日)

当日は、いつもより1時間遅い集合出発となりました。佐賀大和・武雄北方間は九州地方とは思えない吹雪状態でしたが、長崎県内に入ると嘘のような天候で、大きな問題もなくいつも通り竹添ハウスに到着しました。

今回は、「来期以降の事業計画に関する検討会」で、事業推進のための組織づくりの話が中心となりました。講師は長崎市中心市街地の街づくり活動をしておられる安元哲男氏で、三菱重工OBという技術屋さんらしい緻密な理論と、実践に裏打ちされたレクチャーは説得力のあるものでした。

当初、講師の思いと我々の気持ちに若干の乖離があり、紛糾する場面もありましたが、安元講師が我慢強く的確な対応をしてくださり、おかげで2日間有意義な研修ができたと思っています。また、今回、初めて意見を述べられた地元の良き理解者・川尻さんと、JA女性部の幹部・野口さんからは、さらに踏み込んだ意見も出され、足踏み状態から一步踏み出した前回に続き、さらに前進の感がありました。



安元講師のわかりやすい講義風景

## 1) 業界や地域で異なる組織化の問題

最初に安元講師から、現在活動中の長崎浜町商店街周辺の組織と、その活動状況についての話がありました。商店街組合、自治会、祭りの実行組織が入り乱れて、外から見ると分かりにくいのが、内部は決してまとまっている状況ではないとのことでした。商店街出身の私にとっては身につまされる話で、建設業・製造業・小売サービス業と、段階を追って同業者間共通の利害得失の意識が薄れていくのは、どの地域も同じだと感じました。

「長崎くんち」のように、観光客など、外部からすると地域一丸と見えるものでも、決して一枚岩ではないというのは、最小限度の責任組織と、地域をまとめる場合の組織体の関係で、今後の地域づくりにとって大きな示唆となるものでした。



安元講師の話に聞き入る参加者メンバー



安元講師の豊富な経験を踏まえた説明の一幕

## 2) NPO 法人とは？

NPO 法人でいう「非営利」の定義とは、「利益を関係者で分配しないこと」で、無償のボランティアではない。報酬を受け取ってサービスをしていても良い。スタッフは給料をもらっていい。儲けてよい。

法に定められた活動の分野とは、

保健、医療または福祉の増進を図る事業。 社会教育の増進を図る活動。 街づくりの推進を図る活動。 学術、文化、芸術または、スポーツの振興を図る活動。 環境の保全を図る活動。 災害の救援活動。 地域の安全活動。 人権の擁護または平和の推進を図る活動。 国際協力の活動。 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動。 子供の健全育成を図る活動。 情報化社会の発展を図る活動。 科学技術の振興を図る活動。 経済活動の活性化を図る活動。 職業能力の開発または雇用機会の拡充支援する活動。 消費者の保護を図る活動。 前各号に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助の活動。

ということで、ほとんどの地域活動が該当するようです。安元講師の「NPO 法人は、専門家集団でなくてはならない」という指摘が特に印象に残りました。



安元講師と松本さんのコラボ説明??

## 3) 都市も地域も同じ問題を抱えている

安元講師のお話の中で衝撃的だったのは、長崎市は地形的に傾斜地が多く、高齢化により、そこで生活できない人が出てきて、都市部でありながら「限界集落」となりつつあるということ。また、従業員の多い工場などの業務縮小や撤退などにより、その周辺も「限界集落」となるということです。このように、自然的要因に加えて社会的要因でも「限界集落」はできる。そこで私が直感したのは、次に「限界集落」となるのは、昔からの商店街周辺地区であるということでした。しかし、これは、前二者とは異なり、地域の努力でかなり防ぐことができるということです。

また、地元の川尻さん、野口さん、中川さんによると、雲仙市内でも地縁、血縁、世代間交流が希薄になり、自殺者が出ているということで、都市部も地域も同じ問題を抱えていることが解りました。これらも、今後、この事業の課題となると感じた次第です。



議論に熱が入り、体当たりで意見を述べる山下さん

今回、地元の川尻さんと野口さんは、今までの

思いが吹き出したかのように、止めどなく本音を語り、中川さんも冷静な視点で地域の課題を述べ、お互いに、大変有効(=友好)な場になったように思います。また、講師・安元哲男氏の「地域づくりのための組織論」は極めて秀逸で、九州でも、あれだけ語れる方は少ないのではないかと印象を持ちました。そして、♫の松本節もいつものように快調でした。



安元講師に川尻さんも次々と意見！！



地元参加の野口さんも本音で議論に参加

私見ですが、特産品開発と観光だけでは、活性化効果も限定的ではないかと考えていましたが、前回より、JA女性部との繋がりが強くなりつつあり、今回、農家の「とれ過ぎ野菜」の使い道という話が出て、これには別の活路も見えてきたような気がしました。

1日目の夜は、お酒も入り、この事業の行く末を案ずるあまり議論が白熱し、乱闘寸前になって、波木さんの目が三角になったのが印象的でした。(苦笑)2日間の行程も終え、車中、和やかに談笑(ほとんど居眠り)しながら福岡に着いたときは大雪の後のようでした。

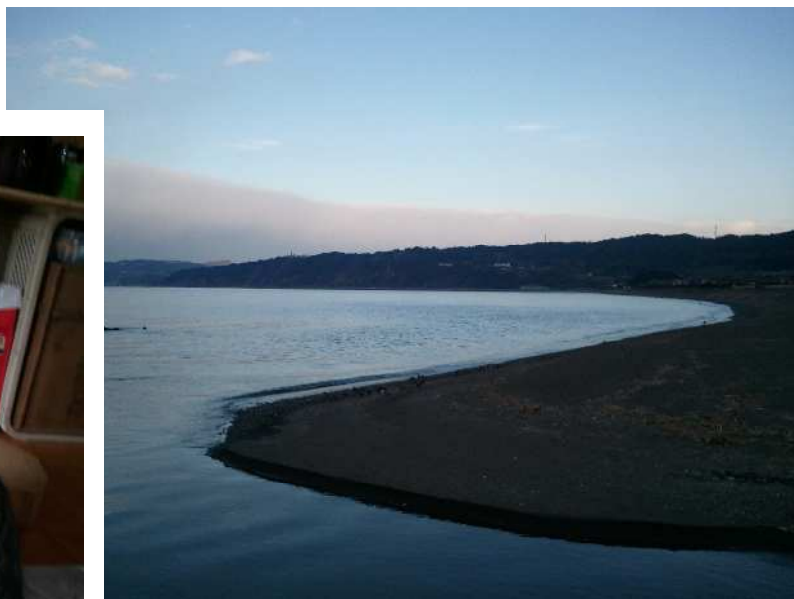
文責 金尾俊郎



丸2日間、熱心な討議で、みなさん、お疲れ様でした！！

# いいね！ ♡ 雲仙 ♡ よんなんせ

凜とした千々石の夜明け



どことなく、お姉っぼい竹添ハウスの主  
タケコ・デラックス

(金尾氏撮影)



恵比寿屋さんの夜のお食事



今回のお宿（小浜温泉：恵比寿屋）